

日本書紀から見る 土佐の重要性



紀元681年に3月、6月、10月、11月と4回、582年に、1月、3月、7月、8月に計5回の地震があり、684年10月14日には白鳳の大地震が発生しています。

午後8時大地震！ 男も女も叫び、あわてふ

ためく……。山は崩れ、津波が打ち寄せ、建物は倒壊し、百姓の倉、屋敷、神社、寺塔は数えきれぬほどの被害をうけました。

『人民、家畜の死亡も多くその数知れず……伊予温泉は止まり、土佐国では田五十余万頃の地が海に沈没してしまった。これほどの地震はいまだかつてなかったと古老がつぶやいた……（大意）』と日本書紀に記述されている黒田郷が南国市の十市沖だという説があります。

天武天皇の時代の地震に関する記述ですが、遠く土佐の地と伊予の地のことは詳しくあり、一方で、都の状況が記述されていないのはなぜでしょうか？ 奈良の天子がなぜ、それほど土佐と伊予のことを記録しなくてはならなかったのでしょうか？ それほど土佐の国が重要な地だったのでしたのでしょうか。

同和教育 シリーズ

いま部落は、そして……。

部落の実態と今後の課題①

（採用試験の現場では）

前回まで紹介したような就職差別をなくすため、いそいそ取り組みが行われてきました。今回は、そのうち「統一応募用紙」「受験報告書」を紹介しましょう。

（統一応募用紙）

一九七〇（昭和四五）年、

近畿高等学校進路指導連絡協議会が、差別性の強い社用紙をやめさせ、本人の能力、適性によって公正な選考が行われるようにと考えて制定した「統一応募用紙」がはじまりました。協議会は翌年からこの用紙一本で応募していく取り組みをすすめ、その動きは中国・四国・九州の各県など全国的な広まりを見せるようになりまし。これら民間の自主的な取り組みにおされ、一九七三（昭和四八）年に労働省・文部省が、全国高等学校長会の定めた「統一応募用紙」を使用するように通達を出し、現在も使用されています。

その内容は、
（一）本籍は、府県のみ記入する。
（二）家族欄では、家族の氏名、性別、年令のみ記入する。
（三）本人の職はなるべく詳しく記入し、採否の重要な参考資料としてもらう。
（四）家庭の経済状況とか、財産等は、一切記入しない。など差別選考を排除する様式になっております。

（受験報告書）
一九八〇年代になると「受験報告書」が利用されるようになってきました。

受験報告書は、入社選考のあと試験内容・面接・作文などで次のような調査が行われなかつたかについて、本人から学校に提出し、差別につながる内容があれば、県や職業安定所に対し、改善するよう行政指導をするしくみになっています。

受験報告書（抜粋）		番号・氏名	番
基	作文題	400字詰原稿用紙 枚数枚	
	身体検査 ※身体測定・身長測定・血圧測定・レントゲン その他（ ）		
考	適性検査 ※クレペリン・職適・性格検査・その他（ ）		
	面接事項	所要時間（分） 試験官の人数（名） 面接検査の人数（名）	
試	【学内外諸団体における活動状況】	団体の名称・時期・役職	
	【主観信条その他】	生活信条、処世の信条、信仰する宗教・興味・尊敬する人物・支持する政党、思想団体	
	【志望の動機、進路方法、所要時間、入寮か下宿か、学費・小遣アルバイトの経験】		
	【家族の状況】	家族の年齢・健康状態、職業・勤務先、最終学歴、居住地の環境	
験	【資産および収入】	動産・不動産・月収・年収	
提出書類（原否決定前に請求された書類） ※戸籍簿（抄）本・住民票簿（抄）本・診断書・身上調査書 その他（ ）			

※の所は該当するものを○で囲んで下さい。